

さんがくしゅげん だい39ごう

#24 山岳修験 第39号

作者：城川隆生（きがわ・たかお 1958-）ほか

刊行：平成19年（2007）

📖 解題

■ 内容

『山岳修験』は歴史、地理、民俗、宗教、文学、美術、芸能、考古などの分野からの研究論文や史料が掲載されている学会誌である。本号は、2006年に開催された第27回日本山岳修験学会における研究発表に基づき編集されたものであり、城川隆生著の「地方霊山の入峰空間と寺社縁起－丹沢と大山寺修験－」が掲載されている。



[K17.64/52]

著者は本論文において中世大山寺修験の修行空間の調査を行い、行者道踏査の意義や問題を明らかにした。

まず富士山の『富士縁起』『浅間大菩薩縁起』など、様々な地域の縁起を考察し信仰の対象としての空間認識を把握した。これらをもとに山岳宗教者にとって重要であった空間認識の要素を表にまとめた。

次に丹沢山地の宗教者の空間認識について『大山縁起』の真名本（漢文体）を調査対象として、宗教空間の分析を『神奈川県語り物資料－相模大山縁起－』（翻刻）をもとに『続群書類従』と『伊勢原市史』を参考におこなった。

著者は大山が周辺の修験者にとって重要な行所であり、入峰空間の入り口と認識していたと考えた。又、山の開発や自然災害などで山道に変化が起り行者道踏査の難しさも指摘している。

■ 作者

1958年生まれ。筑波大学第一学群人文学類哲学主専攻卒（日本倫理思想史専攻）。放送大学大学院文化科学群修了。日本山岳修験学会会員。フィールドワークガイド。万象房代表。神奈川県秦野市出身、町田市在住。もと神奈川県立高校社会科教諭（1981-2003）。著作に『丹沢の行者道を歩く』（白山書房 2005）、「丹沢山麓の中世の修験とその関連資料」、「丹沢山地・蛭ヶ岳と山岳修行者の空間認識」がある。

 参考文献

- 『霊山と日本人』宮家準著 日本放送出版協会 2004 [163. 1/112]
- 城川隆生「大山修験の行者道」（『丹沢の行者道を歩く』城川隆生 白山書房 2005）[K291. 61/114]
- 城川隆生「丹沢山麓の中世の修験とその関連資料」（『郷土神奈川』47号 神奈川県立図書館 2009）
- 西海賢二「全国の霊山 関東▲大山[神奈川県]」（『日本の霊山読み解き事典』西海賢二ほか編 柏書房 2014）[163. 1/136]
- 『修験道小事典』宮家準著 法藏館 2015 [188. 59/46]
- 鈴木正崇「山岳信仰とは何か」（『山岳信仰』鈴木正崇 中央公論新社 2015）[163. 1/140]
- 城川隆生「丹沢山地・蛭ヶ岳と山岳修行者の空間認識」（『山岳修験』58号 日本山岳修験学会 2016）※当館所蔵なし